WAS-W
HQ
1104
J34

Feb. 1892
no. 306

女學雜誌

第三百六號
明治二十五年二月二十七日發兌

總撰擧の結果を觀て感あり
右四女生の答文

兒鑑　白つゆ

國家を愛すとは何如なるとぞ　社説

雛遊　畫圖入

中島うた子家集黜削批評
右歌の學に宜し

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜 女 誌 學

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 306. FEBRUARY 27TH. 1892.

EDITORIAL :—What is Meant by Loving one's Country?

CHILDREN'S COLUMN :—A Motherless Child.

LITERALY :—Decorative Art of Japan (Illustrated) No. II; Poems Corrected and Criticized by Mrs U. Nakashima. No. I.

MISCELLANIES :—What I think of the Late General Election (Answers from Girls in a Female Seminary); "Hina" Asobi (Dall Festival) Illustrated.

CONTRIBUTED ARTICLE :—A Poor Girl (Original by Schillel).

TOPICS OF THE DAY.

NEWS OF THE WEEK.

第三百六號目次

●社說 國家を愛すとは如何なることぞ
●兒籃 白つゆ(來し時)さち子
●文藝 日東の美術(其二)○中嶋先生歌點取
●批評 ベーコン女史著「日本婦女子」
●雜錄 總撰擧の結果を觀て感あり(女生四人の答)○雛まつり(圖入)
●寄書 可憐孃(シルレル作、石松子譯)
●時事 屍の向ふ所

簡易出版 預約募集廣告

小生が、明治女學校高等科女生に口授したる講義の中、左の二書に錄したるものは、些さか大方の是正を請ひ度ものあり、且つ地方に在る女生にして其筆記を見たしと要むるものもあれば、簡易出版法(ミミヲグラフ)を用ひて之を印刷せんとす。同時に每號殘餘二百冊を得べきに付、下に記す條則にて預約者に分配せんとす、

女學雜誌社 巖本善治

○講義錄

教育學

憾むらくは世上の君子と意見を異にするものもあるべし、左れど讀考窮査して多少の意見を開陳せり。

女學

年來此の一科の學を講ずるの必要を感じたる也、前年田口鼎軒君は痛たく之を駁し玉へりしが、遂に尙之を講述す。

右二書各々、一冊中本四十頁物にて、月一冊を配付し。凡そ一年にて完了す。

○代價定

「教育學」「女學」ともに一冊各五錢、郵稅二錢、一年分、郵稅合せて八十四錢(社に來受せらるゝ人は郵稅なし即ち六十錢)の定め、一方丈を約せらるゝも可なり。

○預約期

四月一日に第一冊を配付す、每號二百冊に限る。預約申込は、一年前金封入、三月二十日迄の事、兩書ともに預約の人は前金半年分納あるとも無差支。但し定數に超る時は謝絕す。事務は、下六番町女學雜誌社にて辨ずる事。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第三百六號　明治二十五年二月廿七日發兌

社說

國家を愛すとは何如なるとぞ

今にして深く老莊矯激の言辭を味はふ。細々たる小君子、口を仁義に賣り、舌を道德に動かす、而して其行を見れば朝市の商人よりも卑し、熱腸如何んぞ激するを禁ぜん。輙はち罵しつて云く、仁義何ものぞ、道德何ものぞ、聖人出でゝ大盜止まざる也と。今の國家論者亦た當年の僞君子に似ずや。

抑そも國家を愛すとは何如なる意義ぞ。單に之を舌頭に囀づるのみの謂にあらじ。下郎の如き小役人を集め、何事にまれ謹聽する耳を利用して、獨逸國の糟粕を吹ちらすの謂にもあらじ。結髮大小の失せたるに氣を落し文明世界に衣食しがたきに歎息する舊風連を煽動し、其の局促たる藩籬的氣質を種として攘夷の殘火を再燃せしめんとする賣名演說の謂にもあらじ。國家を愛すとは如何なる意義ぞ。

或ひは言はん、國家を愛すとは之を愛するの謂ひなりと。恭やしく高敎を謝す。然れども、愛は必らず行に現さんとを欲すと聞く、諸君既に國家を愛す、然らば何如なる實行をもて其愛を現はさんとする乎、試みに生平の言動を耳目せんとを希がふ。　諸君が職業に勤勉なるとを知る、然れども、職業に勤勉なるは農夫を最上とす、夙に起きて雞鳴を背にし、曉星を頭らにし、東天未だ白まざるに既に鋤犂の歌を奏するは諸君の及ばざる所ろ也、もし職業に勤勉あるを以て愛國と云はゞ、諸君は農夫に及かざる也。　諸君は至つて錢を好けり、一錢と雖ども徒らに與へず、一厘と雖ども暴りに辭せず、經濟に愼しめりと云ふべし、然れども錢に忠あるは商人を最上とす、誰か、其利巧にして慧敏なるに及ばん、誰か其の錢もうけの賢こきに及ばん、もし射利を以て愛國と云はゞ、諸君は商人に及かざる也。　諸君は每度慨慷せらる、屢ば其切齒扼腕せらるゝとを聞けり、然れども、悲憤慷慨は壯士の長所とす、必らずしも宇内の大勢を知るにあらざる也、必らずしも理藝哲學の片はれを窺はざる也、必らずしも博愛と愛國との調和を考へざる也、必らずしも基督敎、佛敎及儒敎の教理を聽聞せざる也、而して卒然怒り、卒然鎭まる、喩

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

えば、七面鳥の息忽にして色を變ゆるが如し、もし悲憤慷慨するヿを以て愛國と云はゞ、諸君は壯士に及かざる也。諸君は屢ば、德育上の　勅文を唱ふ、然れども諸君に優りて之を唱ふるもの尙あり、或人は　天皇に直隷する陸軍の徵兵より逃れんとて、官立學校に入り、不正の手段を以て卒業し、卒業后官立學校の敎師となり、切りに　勅文を唱へて敎育したり、又或人は、現に其親を勘當し、而して女生に　勅文を讀み聞かせて熱心に德育に從事すと稱す、もし無容赦なるクロムエルを導びき、其の慨然憤然として摘指罵嘲する所ろに任せなば、「彼處に大酒のみあり、其處に敗德の惡漢あり、彼は不正直なり、此は姦淫を犯せり、彼等は、福音の聖敎を瀆がしたり」と責め、顧みて兵に命じ、麾ねきて場外に吐唾逐追すべき多くの敎師尙ほ連りに　勅文を唱ふ、而して如此き先生に敎授せられたる子弟は尤とも眞面目に彼の　勅文を尊重し、常に之を朗唱す（之れ實に美わしきヿ也）、左れば若し　勅文を口に唱ふヿを以て愛國と云はゞ、諸君は彼の正直にして淡泊なる多くの小學校子弟に及かざる也。吾人は近ごろ、選擧界に多くの奇事を見聞したり、金を以て票を買ふもの、刀を以て選擧者を脅かすもの、夜陰密に入つて之を切るもの、毒を混じて之を欺き殺すもの、若くは、一朝數百の有爲少年に退校を命ずるもの、小學子弟の父兄に迫るもの、一場の小演說の短一句を捉へて、私立學校を蹂躙するものなど、武藏野の草の多かりしが如く、實に樣々にてありき。而して、此輩多くは生平尤とも多辨高調なる國家論者にてありき。國家を愛すとは抑そも如此きヿか。

むかし、羅馬、帝及國家を神聖にして、万事を其下に屬せしめんとなしき。而して「人は」遂に其中に沒するヿなく、羅馬久しからずして亡びぬ。方今の論者、大日本を擧げて羅馬と爲さんとする乎。然して之をもて眞正の愛國なりと云ふ乎。須らく宇内の歷史を讀むべし。

大日本の國家を愛するは、上み　兩陛下より、下も四千萬の同胞を愛するの謂ひにあらざる乎。既に四千萬を愛すと云はば、先づ其一人をも愛せざる可らず、一人だに愛せずして何如んぞ四千萬を博愛するヿを得んや。而して、今の所云る國家論者は、果して一箇人をすら熱愛せしヿありや。あり、其一身を愛す。然れども、一身以外、果して何人を愛せしや。

必らずしも、父母に孝なるを聞かず、何んとなれば、堂々たる國家論者にして、親子間の合はざるを耳にすると頗ぶる多ければ也、既に父母を愛せず、其昆弟親戚間の事知るとを得べし、其妻をすら愛せず、或る國家敎育の主唱者は、多年の契約を破り可憐孃の一生を碎き、二度び妻を易へ、一度び妻をして狂せしめたり、肉親既に然り、安んぞ其婢僕に於ける仁を要めんや。あゝ、彼等すでに其肉親を愛せず、其最近の人を愛せず、而して四千万を愛すと云ふ。四千万を愛せず、而して國家を愛すと云ふ。抑そも國家とは如何なるものぞ。漠然として口に辨じ、單に一場の喝采を得んとす。豆男が憐れむべき乙女をなぶり、淫れ女が浮れ男を欺き、只だ口にのみ愛すと云ふに均し、堂々たる丈夫女丈夫、遂に果して如此きか。

蠢々群々として集まる一揆は、人の數多からざるにあらず、然れども、古來一揆は心を有せざる也。流行の俗論亦斯の如し。漠然唱へ出し、漠然應へ和し、囂々聲を高くして天に達す。而して毫も意味あるとなし、今の國家論亦頗ぶる之に類す。

夫れ、俗論に和するは易し、之に逆ふは難し、若し名の賣れんとを希はば、之に應ずるより好きはなし。見よ彼の泥中の龜を。天霽氣朗らかなれば、鈍々乎たる首べを伸し日光に當つ、一旦風起り砂飛べば、短首を更に縮めて小甲の内に深藏す。今や、世上國家論の狂風を以て捲く、何人か能く豪焉堂々として其方向を轉ずるものぞ。

三

吾人は固く信ず、國家を愛するは、人の當然の一務なり、何んぞ殊更に之れをのみ業々するとを須ひんと。然れども、暴りに西洋を崇拜し、小さく自利に僻するの時は、則はち熾んに愛國を敎ゆべきの時なり。吾人亦切に之に同ず。然れども、愛國を敎へんとするものは、身先づ國を愛せざる可らず。一身を献じて國家に許し、全力を盡して同胞の益を爲し、實行先づ擧り而して後ち人に愛國を敎ゆるとを得べき也。彼の曉々喃々として只だ口に辨じ、品德、塵芥よりも汚らはしきものゝ如きは、そも〳〵何ものぞ。云く彼等は只だ投機商のみ、流行につれて翅を伸し、俗論に應じて敢て賣らんとす。眞正義人の落涙を見ず、深夜邦家に斷腸する鳴咽の聲を聞かず、白晝たゞ演説して、暴りに人を罵る。あゝ災ひなる哉、國家論者！、速かに邦家の爲に影を隱すべし。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

兒籃

白つゆ（上）

來た時

さち子

ほんとに氣の毒な譯ですが、あの子供ぎらいで名高い來部さんが、今度とう／＼五ッとか六ッとかになる甥の世話を頼まれましたよ。其子は、今迄オトッサンとオッカサンと一所に印度に住んで居たのですが、今度其可愛ひきれいなオッカサンが天國へ行てしまつたのでオトッサンの手一つでは其子の世話が仕兼ると云ふ事から、其子の叔母さんに頼むと云ふので、とう／＼來部さんの處へよこす事になつたのです。すると、來部さんの心配は、中々一ト通のことでは御座りません。小供だから、うるさいだらう、やかましひであらう、どうであらう、こうであらうと、入らぬ事まで氣苦勞にして居りましたが、とう／＼其子は、兵卒らしひ人に送られて來ました。見ると中々可愛ひきれいな子で、連れて來て呉た人に別れるのを悲しがつて、今にも泣き出しさうな其顏付を見ては、さすが小供ぎらひの叔母さんも、不憫に感じました。見て取つた兵卒は、其子に向ひ、

サア、強くなつて、サヨーナラを云ひませう、キット、オトッサンが、富がおあたに別れるときは、どんな顏をして居つたかと、おきゝなさるでせうから、ネ。

と云ば、富は、ズット頭をもたげ、ふるへる唇をかみしめて、ハッキリ、

サヤーナラ、伯父さん、富はチットモ泣きませんよ、トウサンにもさう云つて下さい。

大たんに云ひはなつて、其人の車の音が聞こえなくなるまで、こらへて居りましたが、それからは、こらへきれなくあつたか、聲を上て泣きました。來部さんは、誠に可愛想だと思ひましたが、どうして慰めていゝのやら、どうすれば泣き止む事やら、子供なれない一人者には、更に樣子が分りませんで、困りきつて、下女の花の所へ相談に出掛ました、

あんなでは、ほんとに困よ、どうした者だらうねー、花や？。

下女　おかみさん、かまわないでおきなさい、子供ですから、直なれまさァね。

と云て居る所え、チョード、富が赤い目をしてやつて來ました。

叔母さん、御免なさい、オトッサンと強くなつて居る約束をして來たのでしたけれど、遂――遂――、アラ此猫はきれいだ事、叔母さんのですか、何と云ふ名のですか。

自分の好きな猫を見ると、悲しひ事も淋しい事も忘れてしまひ、肩へのせてぢやらしました、

ペテと云ふ名だよ、ひッかくから、氣をおつけ。

ソウ？ペテ、お前は、人をひッかくのかえ、いけないよ、さふだけれど、富をひッかきわしないねー、これから友達になるのだもの。

ペテも、新しい友達が、不思議にも氣に入つたものと見え、いつになく大機嫌で、富チヤン（イエ、ニヤンと言つて）遊びました。間もなく、夕飯になりますと、富はいろ〱お話をしながら、食べますとも〱、叔母さんは、呆れて仕舞ひ、心中内々、これからはもッと食べでのあるものを買て置かうと思ひました。さて、御飯がすむと、富は可愛ひ様子をして、叔母さんの膝へはい上り、

叔母さん、サアお話をして、

とねだりました。

相憎、叔母さんは、覺えてより、子供に話しをした事などありません、

何、をはなし？、それは困つたねー、叔母さんには、出來ないよ。

アレ、ソイデモねー、オッカサンが、天國えおいでに成らない時分には、いつでも、御飯後に御話しをして下さつたのでしたもの、そいで、それからは、オトッサンがして下さッたの！。それだから、叔母さんも、どうぞ話して頂戴よ、どんなのでもいゝわ。さう〱、叔母さん、一寸まつて居て下さい、キット、ペテもきゝたいでしようから、連て來ますから、ね。

と、叔母さんの言葉も待たないで、走りだして、猫を連れて來ました。一躰來部さんは、子猫などは大きらひですから、是を自分の居間などに決して置かないのが家風なのです。然るに、富がうれしさうに猫を抱ゐて、猫諸共に叔母さんの膝へはい上つた時には、叔母さんの、口はいう事を聞かなくなりました。富は、叔母さんが默つて居る故、猫禁制の事も何も知らないで、

サア、よろしひ、初めて下さい、聞いて居ますよ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

と、攻めかけられて、逃げ道を失つた叔母さんが、とう〱御話を始めました。

「先づ、ある所にね、一人の男の子があつたとサ、

大きい子？

イ、エ、少さい、お前位の子サ。

ソレカラ。

ソレカラ、エーツト、其子のオツカサンがね、其子を學校へやつた、サア、ソウすると、其子は、學校え行くのがいやだものだから、他へ遊びに行つたとサ。

イヤナ子だね、それから。

それから、其子が、ある果物を取らうと思つたとサ、すると、足がすべつて、木から轉り落ちて、大けがをしたとサア、それでお仕舞。

味氣もソツ氣もない、話しを、よう〱の事で造りだしました處が、富はき〻終つて、

叔母さん、これから毎日して下さい、今日のは、そんなに面白くはなかつたが、馴れると、だん〱じようずに成りますよ。

そこで、叔母さんは、しくぢつたと思つたか、

モウ、お前の寢る時分ではありませんか、

サウデシヨウ、叔母さん、一所に連れていつて下さい、オツカサンは、いつでもソウしましたよ。

實を云へば、叔母さんは、此子を寢かす事や其他の世話は、花にさせる積りだつたのですが、今此子に當りまへの事のように頼まれると、いやとも云ひ兼ねて、手を取つて、

サアおいで。

ペデヤ、おやすみ、又あした遊ばうねー、サア行きましよう叔母さん。

と、叔母さんの手をつかまへて、自分の寢間へ行きました。

キレイな部屋で、温たかさうなふとんですね、でんぐりがへしをして見たいは、好ですか、叔母さん。

イヽケレド、先きに、ねまきを着なければいけません。

さうして、お祈りしてから、ねー。

アヽ、ソウダヨ。

可愛らしひ子が、白ひ寢卷をきて、あどけない罪もない顏をして叔母さんの膝の上へ手を合せて坐つたところは、畫かき

にでも見せたいようです。

富は、可愛ひ聲をして、はじめました、

愛する父よ、この少さい子供をかへりみ玉へ、よわき私を助けて、御許に居らしめたまへ。

叔母は、もうお仕舞かと思つて、立ちかゝりますと富は、

叔母さん、まだですよ………神様オトッサンを惠み無事に守りたまへ、叔母さんも惠み玉へ、又ア…………

叔母さん、あの女の名は、何にでしたつけ。

花だよ、何んだね　、お前お祈りをして居るのではないか忘れてはいけませんよ。

忘れはしません………、又神樣、花も惠み玉へ、次に富をよき子になし玉へ、それからペテを惠み玉へ、イエスの名によりて、アーメン、………サア御仕舞です。

と立ち上れば、叔母さんは、

これお待ち、ペテは猫だよ、ペテの爲めになど祈つてはいけませんよ。

アレ、ダッテ、神樣は猫だつてお愛しなさると思つたわ。

折しも、叔母の心中に、詩人コレリーヂの言葉、

凡てのものを大小となく、愛するものこそ、これ最もよく祈るものなれ、そは神凡てのものを造り、これを愛し玉へばなり。

と云ふ一句が浮び出ました。六ケしい事を兎や角う云ふて、美くしひ子供の信仰を害うてはならぬ、此子の思うやうにまかせてをかうと、心中に問答してをるうちに、富はそんなことは忘れて仕舞ひ、新しひとこの工合だめしに、とんぼがへりを盛にして居りました。

サアもう澤山だらう、お休みなさい。

と、叔母は夜具をきせ、キスをして行きかゝりました。富は、

叔母さん、まだようがあります、今夜の句を下さい。

今夜の句ッて、何んの事サア、

オッカサンが富と一所にいらつしやつた時は毎晩イエスのおつしやつた言葉を一句づゝ敎へて下すつて其後はオトウサンがかわりに敎へて下さつたのですもの、

來部さんは又々困却いたしました。ドッチかと云へば、聖書には暗い方で、サアと云て、さう不意に云れては、一句も出

ないのですが、幸ひ此時は一つ出ました、
をさなどの我に來るを禁むる勿れ、………サア云うて御らん。

富はだまつてをります、

どうしたの、氣に入らないの？、

まだ、無言です。

叔母さんも、困つて居ると、やがてすゝりなきの聲がきこへました、

どうしたの？。

だつて、それは、オッカサンが、一番おしまへに教へて下さつた句なのですもの、さうして、自分で先きへ行つてしまつたのです、富も行きたいわ。

富や、そんな事を云うものではないよ、いゝ子に成つて、いゝ事をたんとすると、今におまへも行けるから、それまで、そんな事を云うものでは、ありません。

さうですか、そんなら、富は一生懸命になつて、いゝ子になりますよ、叔母さん、泣いて御めんなさい、サヤーナラ、御休みなさい。

問答

○宮内省女官の制規

宮内省女官の制規と云ふ如きものを承わることを得べきかと、或人の問あり。極めて精かなるをば知らず、亦知ることも悉とくは言ひがたけれど、大凡そは、令義解第一卷に見ゆる、宮人の職員以下の令に同じく、たゞ少しづゝ違ふ所ろあるのみ。されば、今ま、右令のあらましを下にかゝげて問ふ人の參考となす。○○○内侍司に尙侍二人あり、常侍、奏請、宣傳の事より、女孺を撿校し、兼て内外命婦の朝參を知り、及び禁内の禮式の事に供奉することを掌どる。又、典侍四人あり、掌どること尙侍に同じ、唯だ奏請宣傳することを得ず、もし尙侍なくば奏請宣傳することを得。又、掌侍四人あり、掌ること典侍に同じ、唯だ奏請宣傳することを得ず。其他、女孺と云ふもの一百人あり。第一、藏司には尙藏一人、典藏二人、掌藏四人、女孺十人あり。第二、書司には、尙書一人、典書二人、女孺六人あり。第三、藥司には、尙藥一人、典藥二人、女孺四人あり。第四、兵司には、尙兵一人、典兵二人、女孺六人あり。第

五、闈司には、尙闈一人、典闈四人、女孺十人あり。第六、殿司、尙殿一人、典殿二人、女孺六人あり。第七、掃司には、尙掃一人、典掃二人、女孺十人あり。第八、水司には、尙水一人、典水二人、采女六人あり。第九、膳司には、尙膳一人、典膳二人、掌膳四人、采女六十人あり。第十、酒司には、尙酒一人、典酒二人、あり。第十一、縫司には、尙縫一人、典縫二人、掌縫四人あり。以上、諸司の掌以上を職事とし、自餘を散事とし、各半月ごとに休假三日を給ふとなり。

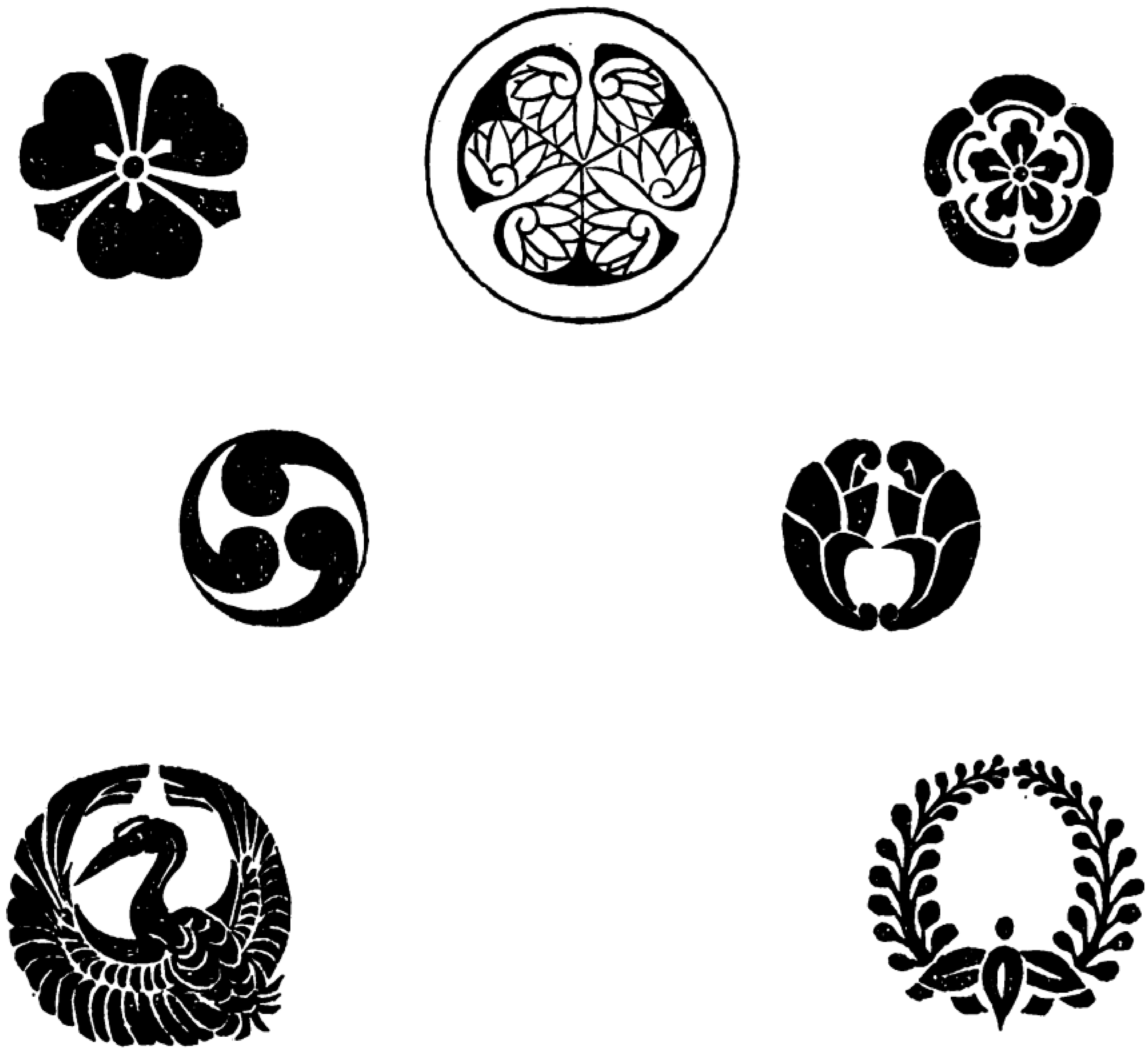
御身上の事に付問合せの向きも、差支へなしと信ずる限りは大抵此の欄内にてお答へ參らすに付き、郵書にて返しせざるを恕し玉へと云ふ。

文藝

日東の粧飾術（其二）

磯うつ波よ虛行く雲よ。あんぞ日東の曲線にうかれて千百の變化に入ることのめでたかる。予はすでに曲線論の底を叩いて日東美術家が雲と波との應用をいへり。かの晃山の旅の寢覺にそう〳〵たる廟門の古色を撫して雲波二形のさびしきを探らば美術應用の實を見むこと予が筆のうへのあげつらひのみならむや。さはあれど是たゞ雲と波との二のみにあらず花鳥風月こと〴〵く之を美線のうねりに皷して天地のこゝろに浮ぶ粧飾のまことゝはなりけらし。

すでに花鳥風月をいひぬ。あにその引證として紋の一事に及ぶことなくして可ならむや試に之を擧げ來るときは千轉萬化その數のいくつといふことを知らず夫花卉草木といへども限りありその限りある紅線を驅て紋を無限の變化に追ふ日東の美術家が巧妙をもてあそぶこと是において見るべし。紋や紋むかし檀の浦の嵐にやぶれて關が原の霞にひらめき村の婚禮によそほひの姿を見せ祭の提灯に無明の闇を破す。日東の民



が花鳥風月を引て之を曲線のさかいに弄することと紋の一事を説きて足りなむ。蓋し線のための線の則(Principle.)なるものは東洋特趣の美術的賦性といふべきが何ぞ日東の民が之を應用することの巧なる。渠儕は其めでたき個性を發揮せむが爲にあらゆる則の應用を盡し、かたくなにして意味もなげなる曲線を染むるにおかしみ(Humour.)の情と諧謔の愛とを以てしたりき。

讀者もし予のいふところを以て今時の語義に用ゆることなくむば予は日東の民が其脳髓に特殊の傾向をそなへてあさからぬ反想を帶びたりといはむ。夫れ渠等をさして美術的なりといふは其粧飾の非凡なる能力より出づる創作の特性を見しものにして始て之を許すべきなり。噫予は是時に當て今時の輕薄なる語義を容れむや左るは渠等の美術的にして其美術的なるを美術的なりと賛するに一點のへつらひさへあらざればなり見よ渠儕はちいさやかなるおしまつきに楚々の花瓶を配置し日頃愛でつる「ポエトリー」の色紙短冊を屛風に糊にす其意匠の結果たるや常に巧なる粧飾のすがたに入り「ハーモニー」を出でゝ然も「ハーモニー」ならざる不規則のところに

妙地を示す蓋しこの不規則に於る妙地とはめでたき曲線の秘訣にこそあるべけれ。いでや讀者と共に之を探らむ。

夫れ審美の官能を叩く線の妙は之が爲に發する智識の快感と相離れざるごとし更にこの快感を分析し見ばもとこれ消極的なる「不知」の快感にしてこゝに好奇心の發するときは「不知」の快感より引て「欲知」の快感に出づ（不知之快感者是幽玄之妙地乎）さはあれどこれ官能的刺激の料となりて美の要素なる沈靜(Repose.)を欠くにいたる、

曲線快感則

第一 （起波） Pleasure of Knowledge.

第二 （承波） Pleasure of Not-knowing.

(The satisfaction of not wanting to know.)

第三 （轉波） Pleasure of Seeking.

比則

Pleasure of Not-knowing: Pleasure of Seeking $= x : y$

見よ快感則の第一は Commonplace の頭地にして第二は即ち Beautiful 第三は Eccentlic の頭地にあらずや。もとより Beautiful, Eccentlic との間に正確なる 比 を作らむこと難し。さはあれど其第一頭地なる第二則第三則の首肯すべきものなるや明けし。

予は曲線の快感につきて三則をいへり。さはあれど之が爲に美術的配置より生ずる快感の一事を忘れしものならむや。人ありこゝに花瓶をおしまづぎに置く之をもて其中點に配置くべきか左るは其面を平分して凡境を作るといふに過ぎず。もし机上の花瓶をもて其位置により一段の莊飾に出でむとせば更に其凡境を轉ずると共にはなはだしき極端にあるべからず之を三と二との割合に置かむか奈何にして其凡境を免かれむ之を九十九と一との割合に置かむか奈何にして其極端を免かれむ然るに日東の民は之をして風致を生ぜしむべき點を知ることの百にして止まず噫かの美術的配置なるものは日東の民が日々の生涯における特趣の學びといふべきかな園丁はこゝに籬下の紅白を點じ兒童はこゝに机上の花卉を弄ぶ乙女子のかざり畫伯の丹青ことごとくこゝに出でじといふものなし。噫一日もこの特性を見ずして日東に在らむものは落花に對して春の暮るゝを知らざるに似たり。

是に於てか瀛西の美術家は日東の秘訣を了せむとこそ願はめ

過ぬる年「ブリチッシ」のさる美術家にしてこの國に渡りたるものありけり一年の間大方の趣味に耽りいたく日東の美術に酔ふて歸りぬ。畧ぞ知らむこの人は國に歸りて後うつくしき繪畵展覽會を催し英國都門の風雅を驚したりとは。叉奚ぞ知らむその繪畵の装置なるものは反て是れ日東の意匠の最拙なるものにだに及ばざりしとは。

いで快感論の岐路を轉じて日東粧飾術の一部分なる創作的の意匠を窺はむ瀛西の美術家は之を以て「アート」の要素とこそしたりけめ日東の創作家は是に頗る入神の域に達したるもののあり予は是に於て頗る滿足なる解釋を得むとするに困む。線のうねりは予之を知る。花の模樣は予之を知る。海波のうつろひは予之を知る。輕雲のいろどりは予之を知る。そもそも日東の美術家はいづれより其想像と能力と變化の法とをうけ來りて花鳥草木風月烟雨の意匠に出づるぞや。夫謹嚴と洒落の二性に逍遙するはこの國民の特質にして叉美術上の個性とやいふべき。さるはその「ユーモア」の後に從ひて沈鬱より快濶に轉ずるの地ならめ。予はこゝをおかしみの地といふ。何をか美術の上のおかしみといふ。こは日東の民にくらべておもくるしき西人といへども敢て夢想せざるところには非ずまことは我音樂の精髓とはこのおかしみを命とするものなりこの故にパーセルが五音を脩めしといふ疇昔よりあらたなるおかしみを出だすものの起りて之を聽くものは其魔酒のめづらかなるに酔ふ是に於て一のおかしみに慣れては他のおかしみ之を驚かし音樂の精髓はひとへにこのおかしみの上に横はる豈に音樂のおかしみのみならむや眼を詩界に放ち見よめづらかなる韻語韻文の人を驚かすことといかばかりぞ。性來一盞をだに嗜まざるものといへども詩酒に對しては直に奮て一斗を飲む。これそのうちに無限のおかしみのあればなりけり。むかしある伶人の意義ある風調を奏でゝ然も詩仙を驚かしたりといふものは是おかしみによらざらむや。

おかしみなる哉。予は詩と樂との二境に於ておかしみのめでたきよしをいひぬ。日東の民は美術の上に於てこのおかしみのめでたさを知る。渠儕が磊々犖々としてそのうち「ユーモア」の靈心に通ずるところ粧飾術の妙地に逍遙するを見る。こゝに美術は俗人を清殺しこゝに風雅は厭世家を昏倒せしむ左はあれど之を美術の化粧といふはよし直に之を指して美術

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

といふは大に不可なり。「フレンチ」(佛人)は之を呼びて、「流行」といふ。何を以て美術のおかしみを呼むで流行といひ化粧といふ。そはおかしみの想像に語るとも心に語ることなければなり。この故に美術を評せむとするに當りては先づこの流行を排せざる可らず。そは流行より起る美術の快感は一時一瞬のものにして反てこれ美術の讐敵となればなりけり噫この流行を如何せむや。

予は是に於て少しく美術標準の本旨に歸らむと欲す何となれば日東の粧飾術にして瀛西の民を狂せしむるもの多くはこれ流行の境を出でざればなり。もし強てこの種の創作に命ぜむとせば予は之を蜉蝣的といはむ或は之を泡沫的といはむ。蜉蝣泡沫の假の美術やいづれ夕の風に消えざる。

予は是において日東の民があきらかに二の傾向に入れるを認む。一を粧飾における不規則の地とし一を搆造的粧飾法の缺乏となす。Irregurality の地におひては更に之をこそ論ぜずもあれ。さる有名なる建築家ことばをなして曰く搆造を粧飾するは粧飾を搆造するに非ずと。宜なるかな事物の粧飾を凝すに當りて其完全ありしものすら反て之を一部分の觀あらしむる如きは粧飾法の大なる誤謬なりけり蓋し粧飾をして其應用の地に適せしめむとし之によりて其完全を促すの妙に入らむこそ美術の最高なる目的の一なりけれ。然れども日東の民がこの粧飾法を搆造の上に弄ばずして反て他の美術の上に於て其妙地を出したるは是一種粧飾上の奇觀といふべし。そも〱日東の民はかの搆造建築の術に暗くして古寺古廟に絕凡の斧痕をとゞめたりとするもこは漢朝印度の美術の影なりと見ば搆造建築の術において何をかたうとび何をかほめむ。見よや渠儕は搆造せむと欲して却て之を畫く。

噫日東の民は粧飾を搆造に用ゐざりしといへども之に依て反て粧飾を繪畫の一點に注射したり。夫れ繪畫に繪畫の標準あり粧飾に粧飾の標準ありみだりにかれとこれとを用ゐれば焉ぞこゝに二者の撞着を見ざらむや。

中島歌子先生點取

たつ子録

○當坐題　寒中鶯

○山がつも耳かたふけて過るかな　つや子

わがかくれ家

しつけき宿の庭のうくひす

四の句ことわりに過て餘情うすし

○、、くれ竹のよは春深く成ぬらん　みの子
わがかくれ家
しばの庵も鶯のなく

上下打合がたしさるは柴の戸柴の庵などは山家に限る事也山里は鶯の早くなくが常なれば上の句に打合かたき之隠家とのみいはば自然よにおくれたるさまも聞えて優美にこそ侍らめ。

○、、しづけさを心とすゝめどうぐひすの　たつ子
きなくをまたぬ日は朝なかりけり

朝とは申がたし

○、、鶯のこゑだになくばわがやどの　たつ子
はるいか斗淋しからまじ

この句だにといふ事おもし歌のよしあしは詞の輕重をつかひ分るに有いはゞ假初の事を人より頼まれたる折にいたくかしこまりて身命にかけてなどいはんはいとふつり合なるべし歌も其如くふつり合ならざる様心かけたまへ

鶯のなく聲きけばくれたけの　樋口夏子
外に友をも得たる宿かな

四の句をもわろしまたかおといふもばの結びによしとにはあらねど外にいはん詞のなきをいかにせん

○、、とふ人も絶たる宿のうめがえに　伊東夏子
こゑおもしろく鶯のなく

二の句理に過ぎて一歌をそこなへり

○、、つれ〴〵のおのづからことばがたきと成にけり　廣子
しばの庵のうぐひすのこゑ

○、、とふ人はのあさなたえたる絶てなけれどわが宿も　みの子
春きにけりと鶯のなく

二の句手つゝにやかくては四の句への照應もよろしからずよく味ひたまへ

○、よはなれしかた山ざとのうれしきは　かとり子
鶯きかぬ日ぞなかりける

二の句のにては打合がたしまた四五ぞるにてはしらべつまりて聞え侍り

雜録

總撰擧の結果を觀て感を記す

右の問題を掲げ、或女學校の社會學の科にて、一時間を定め即席に感を記させたる答數多あるうち、標本として、左の四を擧ると云ふ。其女生は高等小學卒業后三年に相當する普通科に居るものなりとぞ。(二月廿三日)。

其一

解散後次來二月十五日に至る迄の世上のさま擾がしく吏黨は民黨の撰ばれずして其黨の一人も多く選擧されん事を願ひ○○をもて人心を已が味方に傾けんと所々に奔走し或は札を買ひ取りなどし甚だしきは刄を交ゆる迄に實に道ならざる事をなすを新聞にてよみし時ある友と語りてかゝる不道德の行をなせども遂には正しき方勝つなるべしいかにして選擧といへば人々のかく道ならざるとをして擾ぎ爭ふとにや若し眞に代議者として其任に堪ゆる人ならば居ながらにも人望は其人に歸し候補者に選ぶならんに實になげかはしき事よ或人候補者に選ばれんとする時若し人々眞心よりして選ぶならば吾れは候補者となるべし然らざれば決してなるまじと云ひしとか師より聞きたりかゝる人ありてこそ眞の候補者の任を全ふすべきものなりなど語り侍りし其後いかになるやと日々新聞を見或は人のかたるをきゝしがいよ／＼十五日となりてある國には民黨多く出でゝある國には吏黨多數なりし去れども民黨多く出づるを必ずしもよきと思はず吏黨にても民黨にても若し其任にたゆるの智德あらば可あり。今代議者に選ばれたる三百人の人々眞に國家の利益をはかり一も私をさしはさまずして公平なる論をなし道に從ひて事をはからば此上の喜はなし併しながら種々道ならざる爭をなして得たる結果なれば到底滿足すべからざる事は明かなり此後はいかになり行く事ならん經驗なき世上の事に暗き妾のいかになるかは知らずと云どもいさゝか思ふに世は萬物皆正しき公平なる神の支配の下にあれば正しき事は早晩行はるゝべしと信ず又必ず行はるゝものあれば輿論の善なりなさゝるべからずと云ふ事は吏黨の方いかに逆らふとも到底行はるゝべし茲に於て人々始めて輿論に從ふに至らん。

其二

過る十六日以來三四日續きて新聞紙を見ると雖ども讀み得るのみにして如何なる人物あるを知らず只民吏の何れなるかを見るのみ先づ民黨の方多きを見て心何となく喜ぶ民黨なる者悉く民と黨するものにあらず吏黨なりとて悉く惡きと云ふに非る事を敎へられたれば前の感は其故にあらざれども政府の策畧の上品ならざるを心に不快に感じ居たればなり此過激なる時に當りて尙よく政府に反して民黨を擇たる何となく喜びに感じたり然れども之れ眞に內なる心の喜びにあらず密かに我國人の爲に悲しむ我が國長足の進步其步むべきの道に步まずして外部の文明を移し徒らに空飾して省みるなく偶々彼の國に又投票を賣るの風ありと云ば其忌むべきの風に倣ひて良心の撰びに依りて推擧せらるゝ事をせず同胞なる國人は相爭ひ眞に國家を思ふの念なく我にあらざれば任ずる事にあらずして先を爭ふ斯くして出る人如何でか公平なる議を爲すを得んや民吏の競爭此度の如きも公平なるの念よりにあらずして淸からざるの念を以て爲したるかを思ふて悲しむ又心隱かに怪む如何んなれば此れ見易きの理を知らず流に逆りて舟を行る如きの行爲をなすを上帝より見ば同じく一家の赤子に外ならず何故にかく爭そふて孝子たらざるや又先覺の義人等如何に感じ又如何に安じ賜ふかを聞まく欲したり。

其　三

今回の總選擧の結果を見るに其當撰者は中立と稱する者民黨と呼ぶ者多數にして官派即ち政府黨といへるものは最も小數なり此に於て輿論の歸する所も畧ぼ知るを得べし然るに昨年議會散解の當日より總撰擧終る今日まで各派ともに自己の味方を擧んがために撰擧人民の自由を奪ひたるとも少なからず各々の所置は決して同ずべからざる者多かりしといへども就中○○は殆んど立憲政躰の行政上にあるまじき計を運されたるものにして大概ね金力により甚しきは刀劍に委して人民の自由を奪い權利を害し最も甚しきは其結果人命を奪ふまでに至れり斯くの如くにして得たる結果は自己の味方を得るにもあらず却て心ある人をして○○腐敗を嘆かしめ今日まではさまで○○を憚らざりし人々も斷じて○○の卑劣甚しきを怒るに至れり之れ政府が味方を擧げ得ざりしよりも更に甚しき失敗なり妾等は此に於て內閣諸公の心中果していかなる感ありやなしや決して伺ひしるべきにあらず然れども兎に角

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

政府が今日まで已に輿論に逆ひたるも今回更に一層甚しきを加へたるとを信ず輿論に適はざる政府にしていかでよく國家を整理し與ふべき姿は切に現内閣が舊來の利己主義を變じて正義公平を旨とし立憲帝國の行政者たるに愧ぢざる樣致され度きをのぞむ此時に際して國民として深く考へ厚く慮りて將來の結果を想はざるべからず決して此度の總撰擧を以て輕々しく勝利を賴み後來を忘るゝが如き事あらんには如何ならんかと恐る。

其　四

ことを知らんとせばそが原因に溯るを要すそも昨年政府議會相衝突せるや多くの人々は敢て議會を非とせざりき然るに政府はこれを解散して次で今回の撰擧に干渉至らざる所なかりしもたゞ與論の沸騰を買ひ一二民黨中の領袖をして撰擧に洩れしめしのみそも東洋古來の慣習として朝にあるを忌み野にあるを倘ぶは一般の通弊なるにかてゝ加へて意ならぬ解散各府縣知事の職權を亂用せるとしていよゝ人心は政府を離たりかゝる中に成立する議會の有樣しるべきのみ又今回の撰擧吏黨と稱ふる人々中雄辨の士多からざるにあらねど議員の所作は議會外の輿論にて左右せらるゝ事多きは既往の例に徴して明白なれば撰擧にもれつる有力の士は益々輿論を叫起して其極議會政府間の衝突激烈ならんかくて政府は再び議會解散の効を見ざるより總辭職ならんかされど政府未だかくの如き進步の度に達せず其上總辭職の曉入て内閣を組織するは今日の民黨中に求むると難きのみかもし然りとせば輕薄なる日本人民の常として上内閣を輕じて政治の運轉難かるべし朝野とも具眼の士に乏しからざれは如何ぞかゝる明白の理を知らざらん必ずや温和手段もて内閣の總辭職行はるゝに非らず又舊來のまゝにも非ずして民黨中の有力者内閣に列し漸々社會の大勢の方行に進むべしと思ふ也蓋しかくの如きあらん限りの力もて倘民黨多數を得るを見て世の大勢愈々薩長藩閥に離反する事の動かすべからざるを知るべし。

雛まつり

山下石翁

文明と云ふもの出で來て、古色を消す。便利、利巧は必らずしも最上の味ひにはあらず。意味もなき事柄は大いなる意味なり。理窟のみ必らずしも道理にはあらず。己れに古き衣あ

り、破れたりとも棄つるに忍びず、輕衣薄志の男、安くんぞその深意を察することを得ん。忌はしきは、似而非開化のしれものなり。暴りに社會を砥磨して、其表を凡滑にす。たとへばまろ山の味ひなきが如し。吾等はむしろ頑屈の奇峯を慕ふものなり。古雅掬すべき昔しの遊びを斥ぞけ、踏舞、玉つき、カードの外に慰さみなしと思ふ黄口の紳士令孃のみ多きぞ憾みなれ。三月三日、雛まつりの古遊豈樂しからずや、今や其季近づく、人々之を觀迎すべし。

想ひ起す當年の幼なき時を、わが妹小き皿をわが膝の前に列べ、手づから小き瓶を執り、わが兄一盃を傾むけ玉へと云ふ。白酒美人の涙一滴よりも少なし。壇上の雛を拜し、天神樣御臺樣と稱ふ。是れ我等が兩陛下なりと聞けり。年少當時亦多少の勤王心あり、九闕に拜するの心地せり。母は言ひ玉はく、今日は妹たちの爲めの御馳走なりと、われは常になく妹に感謝して食べたり。正月の紙鳶尚ほ破れてありしを揚げ、午后は些さか之に酬ゆるの遊を爲しぬ。

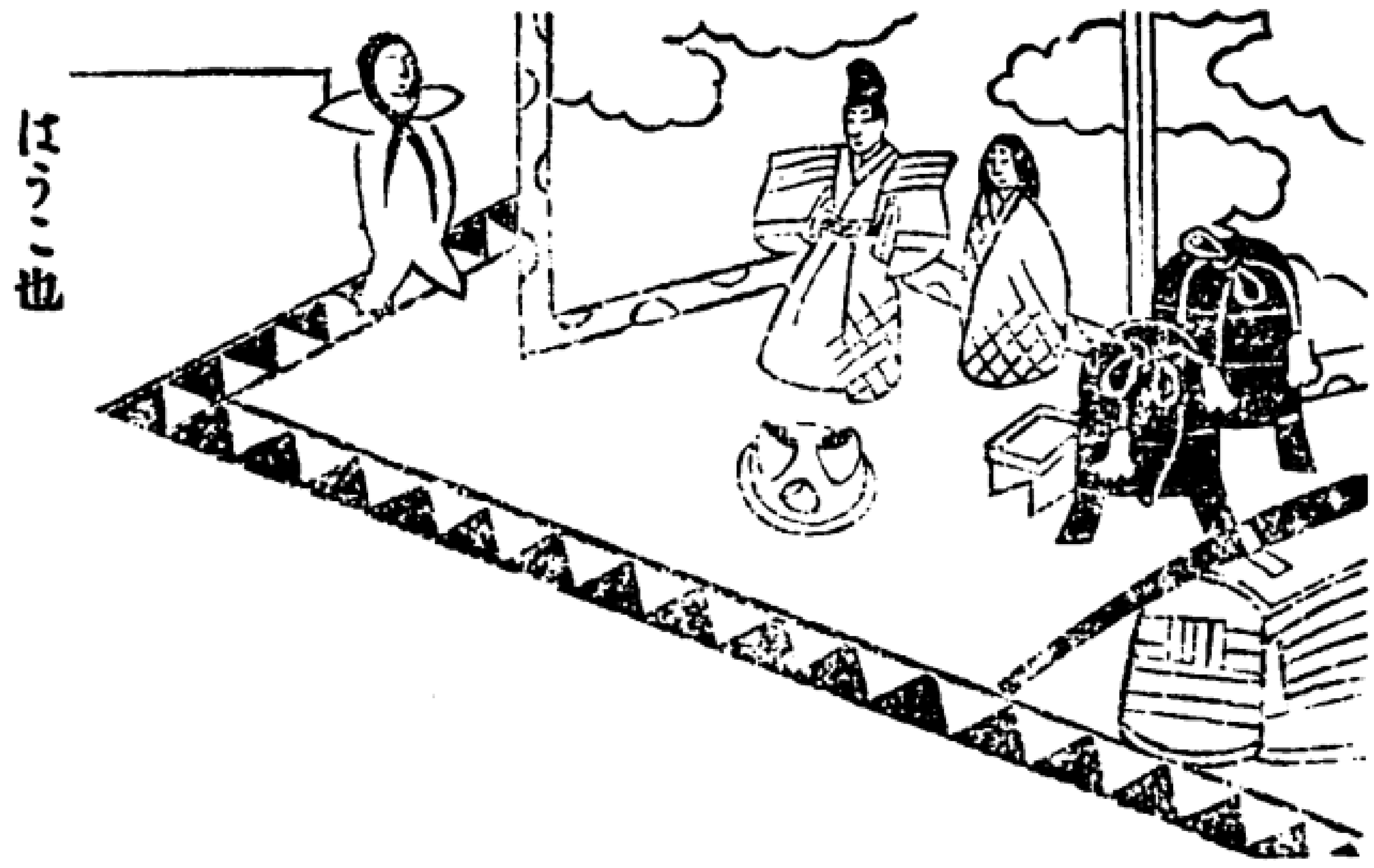
人早や老ひぬれば如何で亦幼なきことを得ん。たゞ幼なきことを得るは、古し乍らの遊を見るときなり。モンテン曰く、遊びとは神聖の職業なりと。我黨何んぞ愼しみて遊ばざる。

イルピン、黄金洲を去つて古禮國に遊び、鄕に入つて純然たる古へのクリスマスに會す。優情湧くが如く、文思舞ふて千古の妙想を吐けり。誰か、三月三日の遊びを觀て、東洋の古雅を百世に遺すものぞ。されば、先づ古人が今人の爲に書殘せしものを讀まん、云く、

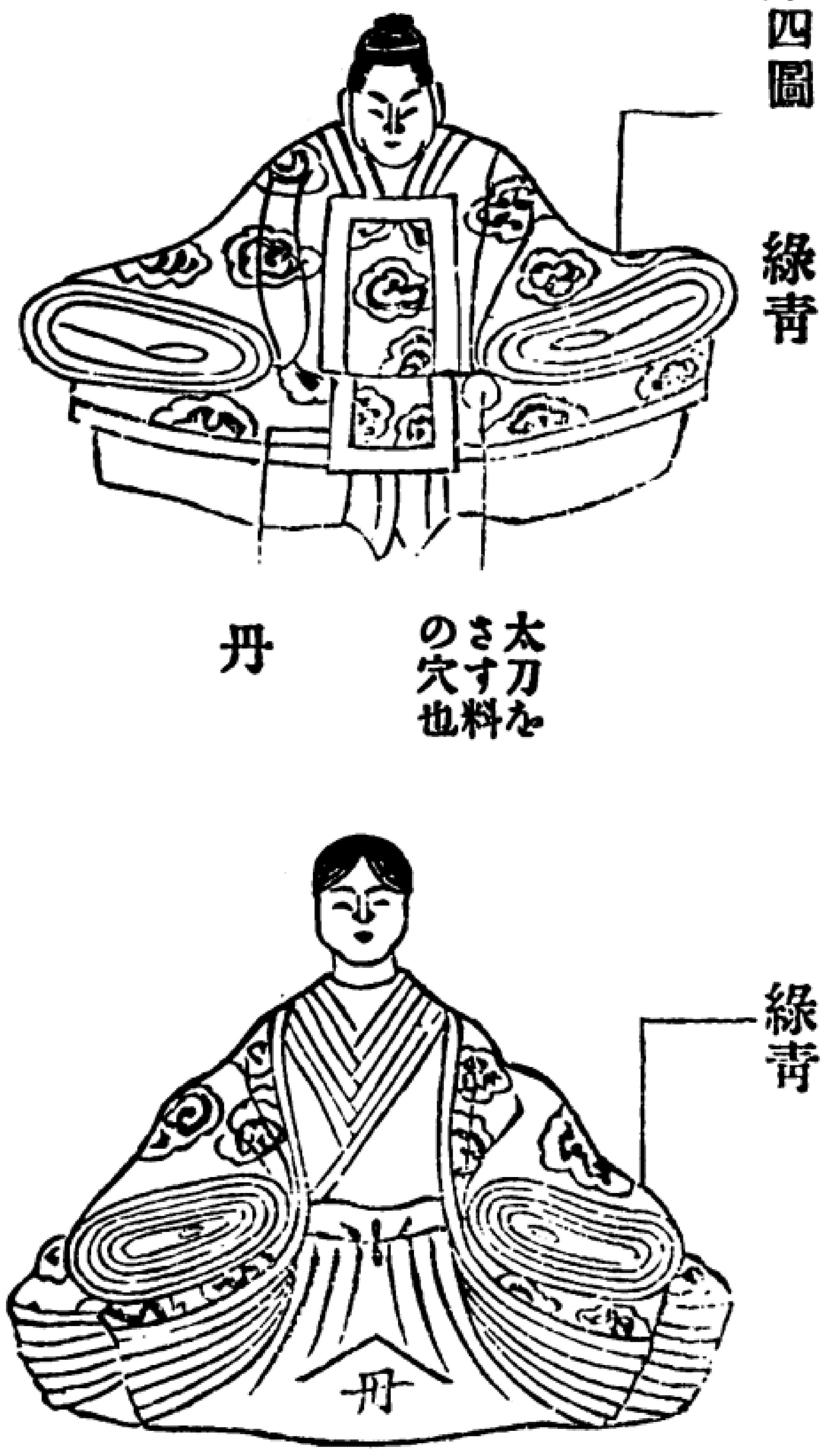
第一圖

第一圖は、室町家の頃のひいななるよし、冠は作り付にてありしが、かけて失せしとぞ、男の方高サかねさし、三寸五分餘、女の方高サ三寸三分。

第二圖



第四圖



第三圖

骨董集に、古へのひいな遊は戯れのみなり、今のは戯れの遊びわざに非ず、女は高き卑しき嫁しては夫にしたがひ、男は外を修め、女は内を修むるものなれば、幼時より嫁して夫に仕ふるわざ、家業の事もひいな遊びにてそのまねびをなし、手馴らはしむるを本意とすめれば、民の童はことに飯かしくわざまでもこれに手馴、家内むつましき躰をまねび、質素を旨として美巧を好むまじきとぞかし、今の世の女兒の男女の形をつくりて夫婦ごと又奴婢のさまなどなして、遊べるぞ、かへりて中昔のひいな遊びにもかよひ、伊勢の小米びなにもかよへりといふべきと。

第二圖は元祿十年印本島濟信が書ける繪の中に此圖あり○第三圖は貞享五年印本日本歳時記に載する雛遊の圖なり○第四圖は享保比の土雛の圖、尚志堂所藏、男女とも高さ曲尺五寸餘、かむふりの巾子はかけて失せたり、すべて土をもて作り燒きて、胡粉丹、緑靑などにていろどり、自から古色あり、凡そ享保前後の物と見ゆ、今も田舍には女子生れて初めての三月の節句に、江戸の今戸燒の土びなを送りて祝ふよし。

貞丈雜記に、今ま三月三日に限りたるひいな遊びの事を按ずるに、古は三月上の巳の日に巳の日のはらへとて、祓をする事ありし也、すべて祓といふとは、陰陽師の方より紙にて人形を作りてをこすを、その人形にて身をなで、息を吹きかけ

てつかはせば、陰陽師はらへを行ひて川へ流し捨る也、かの人形につみとがをおはせて、はらひ清めて災を逃るゝ爲のまじない也、その紙の人がたをあまかつとも、ひながたとも、かたしろとも、なでものとも云ふ也、かの巳の日のはらへに用ひしひながたの紙の人がたを學て、後には木の人形を錦あや織物などにてかざりて、內裏ひなと名付け、かの祓をしたるを學びて、ひゐ祭とてまつる事になりたる也、今ひいなは紙びな本式なりとて、金紙にて作りたるひなをも用る也、白紙を金紙にかへたる違はあれども、紙ひなを本式と申し傳へたるは、かの巳の日のはらへに用ひし人形の姿をうつし傳へたるものなり。巳の日のはらへは、男女ともにするとなれども、後に至りてあそび事になりしゆへ、女子のみのするとにはなりたる也と。

おの〳〵十にあまり玉ひてのちは、をさな心ちに、思ふ心なきにしもあらねば、はかなき花紅葉につけてもひゝなあそびのつゐせうをも、ねんごろにまつはれありき（源氏乙女の卷）。

右、「社會事彙」より採摘する所多し。之を謝す。

時事

○屍の向ふ所

總選擧の際、人の死傷したるもの、左の如しと云へり。

	民黨 死	傷	吏黨 死	傷
高知	一二	三〇	一	一九
石川		二五	一	一五
熊本		八		一
富山		五		

一般に痛歎すべし、而して特別に憤慨すべきは、殺傷の數の格外に相違するとなり。讀者眼光紙背に徹すべき也。

○黨員の數幾干

今日、議員の黨派分を爲すものは、自黨に屬するものを、單に若干數以上と記すべし、暴りに吏黨と罵りて人を敵陣に追ひ込むとなかれ。

○神社にて結婚式

其閑雅掬すべし、其情思憫れむべし。總選擧後一週日、滋賀縣の神官は、神社に於て結婚式を擧ぐるの議に付き、檄を四方に傳へたり。前年或人が、自今佛教を生けるものの世話人とすべし、婚姻の仲人とすべし、たゞ死人のみを扱ふ可らずと云へりしと同日の論あり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

〇政の興廢

孔明、管子を推す。管子爲政の秘訣を説く、極めて易々たり。云く。政之所レ興在レ順二民心一、政之所レ廢在レ逆二民心一と。語を寄す閣上の英雄、公等果して孔明たらんとを欲する乎。

〇閨秀傳

讀賣新聞、女界の豪傑ものがたりを日々連載す、明治の官海何んぞ佳人多きや。良人、花に狂ふ而して后ち貞婦あり、男子、柳に結ぶ、而して后ち好偶を得たりと。あゝ、我國の佳人は、多く花柳の間より出で、良人の不德によりて初めて貞とあるもの丶如し。安くんぞ然らん。

〇條約及改正廢棄

「回天」第二號に附錄せる、パテルノストロ氏、條約改正及廢棄の論、滔々數十万言、或時は長風に御し、或時は怒濤に乘り、又或時は、濱砂を分ち、又或時は天星を數ふ。意氣激昂豪然大斷結して云く、故に、學理上に於ても、條約廢棄を万國に宣言するとを得と。而して落然として一警戒を遺して云ふ、左れど此れ爲政の得策に非ず、更に一策のあるありと。先生は實に朴々たる文字の學者にはあらざる也。中段現行領事裁判の弊害を列擧する處ろ何等の痛快ぞ。志士必らず一讀すべきの文なり。

〇院外の團躰

二月廿四日「日々新聞」に附錄とせる、議員當派別の一表、警保局より調進したるものに酷似すときく。たれか噴飯して笑はざらん。殊に耳け、今回意外に落撰したる一騎當千の民黨の面々は、相合して院外の團躰を造るとぞ。楠本正隆、松田正久、武富時敏の諸氏之が爲めに多忙なりと云ふ。果して然らば、院內に新員を入れ、院外に舊員を存し、民黨の合數一層加はりたるものにあらざる乎。統計者に一言す。

〇總緊英雄

黄石公の三略に云く、夫れ主將の法は務めて英雄の心を緊るにありと。然らば主相の法は果して如何ん。

〇家政及國政

陳蕃云く、一室を掃除せずして天下を掃除すと、去れども一室を掃除せずと云ひたるは疎豪にしても鎮密の氣を欠けり、次來愚暗不肖の賓武と同謀して事を誤まるべき氣習此時已に見へたりと、太田錦城は云へり。家政修まらず、貧乏なるが故に乘取策を講ずる人士には國家の經濟を托す可らず。

批評

日本婦女子 (Japanese Girls and women).

曩に華族女學校に久しく教授たりし、アリス、ベーコン女史、津田梅孃の裨助により、大山伯爵夫人に献ぐるの名を以て、日本婦女子と云へる一卷を著わす。第一章、幼年代の說には、日本の幼兒が幼なき時より甚はだ行儀よきこと、巧みに其身態の位置を整ふることなどを賞め、但だ母親の食の足らざるによりて屢ば皮膚病を發せしむることあるを歎じ、漸やく長じて十六乃至十八にして尋常の教育完く畢ることを說き、之を評して曰く、此時彼女は純粹、好和、可愛くして大なる克己の力と必要ある時何事にても辨ずとの資格を備ふ、たとひ未だ宗教上の眞理を悟りて、世の上に意想を高め、明透幽遠の太氣の中に思を呼吸することあらずとするも、尋常日用の家事に對しては、銳敏、勤勉、好氣、熱心の諸の德を完備し、如何なる時にも嫌惡の相を現すことなし、其の最高の主義は從順にあり、たとひ婦德の尤とも微やかなる處を破ることにありとも、もし父母の命なりせば之に反くことあらず、凡そ人類のうち如何なる國の婦人と雖ども殆んど爲すことを得ざるほどの從順の德を之によりて得たりと。第二章、教育の說に至りては、專ばら古風の仕付けを敍し、第三章婚姻及離婚の說には、女の美を說く所ろ一笑すべし、離婚の弊を說く所ろ顏自から汗する心地す、第四章、妻及母の說、第五章、老年の說はともに外國人には珍らしくして、我國には在ふれたる事を敍す。第六章、宮庭の說には、上み神功皇后の武勳をかゝやかし、近く、今上皇后陛下の美德を賞め奉まつりたる處ろ、尤とも筆勞を謝すべし、第七章には古の城、やしき內などの生涯を敍し、第八章には、武士の妻と題して、會津城中の一女子及び古への歌舞妓に見ゆる、尾上、お初の話を引き、義務の觀念を極めて固く深く其心中に結藏せることを賛ゆる處ろ、万丈の氣焰を吐く。第九章、農夫の妻、第十章、都のくらし、第十一章、家內日々のつとめなど皆な、いと細かき處ろを盡したり、要するに、此書によりて日本婦人の美大ひに顯揚したるを祝す、多少の欠點はもとより外人の書に於て恕せざる可らず。細評に至りては、更に異日の事とす。井上次郎。

寄書

可憐孃

シルレル作
石松子譯

樹々の梢は、吹く風に、搖られゆられて密雲の、
あなたこなたに、簇れど。處女獨りは、寂しくも、
波打ち際に、座してける。玉飛ぶ濤は、力もて、
打ちつ衝き合ふ。慘憺き夜に、處女は哀悼を嘆ちては。
目邊の水は、沸き立ちぬ。「ア、此世、此世は沙原ぞ。
吾れの心を、破るなる。吾が願ぎごとの多けれど、
浮世は、何時も報酬せじ。天の父なる、膝下に、
今しも娘、詣でなん。ア、閻浮の樂知り果てぬ。
生存もしたりや一愛でもしぬ!。オ、益もなに、オ、いかに。
涙なみたでせき止めじ!、人の愁訴は、鈍き死の。
情れなき耳を、醒し得じ!　一されば歸りし、吾が魂は。
治さん藥、あたへなん、こは失にし、戀愛の慰ぞ。
いかで涙の瀧津瀬も、人の愁訴は、鈍き死の、
情れなき耳を、醒しゑん!、且つや心は、美はしき、
失せにし戀愛を悼みなば。治さん藥下すまじ!、
愛の涙の如くには。」

米國通信

（前號のつゝき）

此建物より北数丁許にして一棟あり此處は多く美術に關する教場に數個の書生部屋あり音樂 Drawing, painting, Clay work 等は皆此所にあり。Williston Hall より少し南に當りて閑靜なる森あり此内に一個の石碑あるはメレーライオン女子之墓なり南には Nonotuck 池を望み東に女史の遺せし軒の下に睦み親しむ子供あるが朝夕に此森を通り過つゝ學びの室に入る有樣を草場の蔭にあらずしていと深き森に立ち見る樂のしさはいかならんと石碑に口はあられども “Come, come will give you noble heart, sweet character”. といと愛らしき聲音に語ろふ如く思はれて思はず知らず暇あらば森の木蔭に歩む心を起さしむるは彼女の德の力なるか前に申せし Prospect hill の次きに一の Cotage あり之を pepper box と名けて生徒等が勞れし愛さを慰むる South Hadley の夕景色を眺むる爲に建てしものとか或時は行厨などを携へて此處に交りし席を開く事もあり其小山の後に當りて二個の池あり(校の地面内なり)氷厚き冬の日には氷すべり致すよしされど今年は暖氣にてこれ迄恐れなしに滑べる程の厚き氷もはらざりし樣子にて御坐候ニューイングランドの冬と申さ恐ろしきもの丶樣に用心して手紙來る每に責る如く可申來れど今年の如きは日本の氣候とあまり異らぬ樣に御坐候何時もながら冬期休業歸宅する生徒はソリにてステーション迄參る由なれど今年は雪とて藥にせんにもなき程なりなかく\雪降る景色は未だ無御坐候殊に學校室內は蒸氣を以て暖めあれば大低七十度位ゐり或時には Steam pipe を明なりにして教場などに在て歸り見れば八十度位迄にも上り居り驚き窓を明けて風を通す事あり夫故寒いと存ぜし事は一度もなき程にて御座候 Observatory は Main building よりはるかに遠に在り天文學教場は其内にあるかと存候。

當校生徒の數は二百八十八名教員三十四名にて御座候炊事万端生徒の手にて致之を擔當するは二人の Matrons と教員なり教員生徒の親密厚情なるは恰も親子の如く睦まじきは大なる一家族の如し食事の時も臺毎に二人の教員あり當校は五十余年の前に建られしを以て建物等も古風なり又ライオン女史の素志を變ぜず可成贅入費を省き外飾を去り Stylish の人物を養はんにあらずして世に有益なる Consecrated women を出すといふ精神なり故に月俸等も或大學と比すれば殆ど半額なり故に Stylish を好むアメリカ人の爲には反對する處もあるべし金満家を以て名譽とする人々は或は望んで board の高き他の學校へ送るもの多しとか、當校の他の New England Colleges に勝り居る處は Sciences 其内にも Biology は他のニューイングラント名望なる諸大學の遥に右に出るとの評にて御座候當校管理の摸樣は是迄私の日本に於て見聞せしものに比すれば寧ろ寛なりと申方なるべし併

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

し犯則者の少きは驚く程にて御座候前期中頃迄は犯則者は事の大小に關せず土曜日九時迄に其 Corridor の教員迄事由を認め出す規則なりたさへは夜十時 retire bell 後迄に床に入らざりしさか或は食事に遲刻又教場に遲刻せし等一々報ずる事なりし併し以來は此規則も廢せられ大人あしらい self-government の權を與へられ申候。

毎月一回或は二回臨時試驗あり或教員は前以て生徒に告ぐる者あれ共大抵の教師は知らぬ顏にて翌日のレッスンも平日の如く與へられ其日になり教場にてボードに問題の書連ねあるに驚く事屢なり平日點數臨時定期試驗點合して平均七十五點以上が及第點にて御座候學力認定の嚴なるは他の女子諸大學の及ばざる處なりさか現に小妹の組にても代數科に於て數名の落第生ありたり。

醫師校内に在り毎食事の後一時間診察時間にて自室に招く時は一回五十錢の診察料を拂ふが規則にて御座候病室は是迄南翼の診察所近邊にありしも此度は十町斗距り居る處に設くるさの事靜にて病人の爲には至極よかるべしさ存候。Elevater の設あれば四階五階の上り下りも容易にて御座候併し時さしては之を待つの時を惜しみ校長の屢の勸告を記憶しつゝも覺えず四階五階迄走り上る者多し此廣き地面あるに五階六階さ層を重ぬる必要もあるまじきにさ時に感じ申候まだ何か申上度さ考へし事も御座候へ共つまらぬ事を齊ならべ長文さ相成たれば此度は爰に筆さめ緩々當校の有樣並に當國の女子教育の有樣等申上度さ存候先は御無音御詫旁申述候　匆々　可祝

十二月卅一日夜認む

山脇花子

厳本先生閣下

女報

あい子編

●英國女皇の御滿足　英國皇太孫薨去に付き其臣民が深く悲哀の情を催したるは女皇の實に滿足に思召さるゝ所なりさの旨意を、女皇より内務大臣へ書面にて達せられ、特別官報を以て之を公にしたり。

●皇族流行感冒に罹る　一月十日巴里發の報に依るに澳國子皇及埃及王女は流行感冒に罹れりさ。

●女子高等師範學校助教諭　山川二葉子女子高等師範學校教諭に任ぜらる。

●高等女學校の出品　世界博覽會に全校生徒の繡學及び裁縫物を出品せんさて繡學に巧なる生徒十名を撰拔し絹地に繡かしむるとに決定し、又た裁縫物に就ては目下職員中にて協議中なり。

●鹿兒嶋女學校　同校は昨年以來大に校風を一變し目下西京同志社卒業生なる加藤徳子が英學數學動植物學等の教授を擔任さるゝ由なるが、今般更に川上造士館長の令妹はん子が裁縫の教授を擔任せらるゝ由、同子は東京女子職業學校卒業生さして多年當地の師範學校に從事し居らるゝさ云ふ。

●母姉會　東京廐橋尋常小學校にては兼ての計畫に因り此度聯合町村内の母姉を招き母姉會さ云ふを開きたり、其初日は去十一日にて午前十時頃母姉一同を設けの演説場に導き、職員諸氏の教育に關する演説數番ありし後午後一時に至りて此日は閉會せり、翌十二日午前の間、生徒就學の有樣及び製作品成蹟物等を參觀せしめたり、十二日午後より十三日に渉りて其陳列品の縱覽を廣く衆人に許したれば、入場者踵を接して來り殆んど三千名なりしさ云ふ。

●山田郡婦人會　山田郡内に於ける篤志の婦人達が創意に成れる同會は十四日正午十二時より同郡木太尋常小學校内に於て發會式を擧行す。

●長崎婦人會　は客年十一月の設立にして目下會員百八十名許毎月一同例會を開きて會員の談話演説を爲し又時々學士等に乞ふて教育衛生に關する演説を開く事あり曩に濃尾の震變あるや會員相謀りて古衣類を集め之を同地方に義捐せりさ。

●長岡救世婦人會の概況　十四日午後一時を以て開會來會する者四十餘名始め淨聖讃歌の奏樂あり、次に仙殿學園生徒數名の演説及び中村仙巖氏(智慧の差別)の演説あり、最後大に道長安氏前會の談餘(念聖解脱)を述べられ了つて頂禮の式を行ふて閉會を告げたりさ云ふ。

●茨城婦人會　十三日發會式を擧行せられ贊成員及會員の夫人、令孃等五本松富田彦市氏別邸松琴亭へ集會せし者數十名、同會書記松村シク女史本會を設置の旨趣を懇篤に述べられ、續て醫士柴田郁之助氏衛生上に關する一場の演説をなし、次に藤本セン女史來會者に向て謝詞を述べ爾後益々本會の隆盛を計りたきに付未た入會せざる夫人令孃方に贊成せらるゝ樣誘導あらんことを望む云々の演説あり、終て來會者一同茶菓を喫し各々歡を盡し散會せしは將に日西山に沒するの頃にてありしさ、尙又來月の會日には、園遊會を催し知事書記官其他重立たる官吏有志者を招待せんさの計畫ありしさいふ、發起人諸氏大分熱心に奔走される由なれば爾後益々盛隆に趣く事ならん。

●婦人演説會　一昨夜新町忘吾會舍に於て開會したる婦人演説會は、聽衆凡そ百有餘名中村靜子女史演壇にあらわれぬ、芳紀二十七八徐々さして説く處を聞けば、第一席は男女兩性の關係女子の責任及び權利よりして男女間の快樂さ優美さに付所見を陳べ、第二には、和魂洋才文質彬々たるの開化を望むさの演題にて、日本古來の歷史より今日までの文明變遷上の大畧を陳べ、なほ進んで説かれたるさころは殆ど政談演説のよふありし、それより第三席に於て男女同權に就て一席を辨しこれにて開散す、元來同女史の外に南條光女史も出席口演の筈なりしが、該孃

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は事故あり出席なかりしは遺憾なりし。(熊本忠愛新報記事)

●子孫九十九名　府下南葛飾郡小松井村字新町なる新堀才次郎氏の老母(いな子)は本年滿八十八歳の長壽にて實子六人孫三十八人玄孫五十五人合せて一族九十九人海軍大尉永原義豐氏、京橋區々會議員伊坂半九郎氏等も其孫の一人にして去る十五日八十七回の誕生に當るを以て一族を集めて祝宴を催せし由。

●岐阜縣震災救濟本部通達書　縣下負傷者救療の儀段々諸君の厚志を忝し僻地災餘を厭はせられず日夜御盡力被下逐日好成績を得たる段鳴謝の至りに不堪候然る處此程罹災者の情況視察の爲め出張致され候高木東京慈惠医院長長崎宮內大臣秘書官の兩氏本月廿七日歸京翌二十八日　皇后陛下へ拜謁被仰付患者の實況並治療の模樣及ひ之れに從事せらるゝ醫員諸氏並に看護婦等懇切に患者に接し一方ならず御盡力の段具に言上せられ候處　陛下御滿足に被思召候旨御沙汰被爲在候條此旨傳達可致樣香川皇后宮大夫より申來候付右宜く御了知相成度此段申進候也

岐阜縣知事小崎利準

羽栗郡笠松町治療所

醫員並看護婦各位

御中

●女子倶樂部初會式　岡山津高郡江與味村の女子倶樂部は、去る七日第一日曜日を以て初會式を影洗館(現今の裁縫所)に擧けたり。

●貸座敷の設立許可さならず　松江河原町の松原泰藏外數名より、客年十二月の頃同所倉吉町へ貸座敷設立の義其筋へ上願し居たりしか、此程難聞屆さの指令を得たり。

●貸座敷營業者の請願　岩手管內貸座敷營業者に於ては協議の上同業者田中仁助工藤周造、盛田六太郎、大星半兵衛、小田重太郎等を請願委員さして左の三件を此程縣廳に願ひ出でたりさ云ふ

一貸座敷營業者に等級を付する事

一娼妓梅毒に掛り休業中除稅する事

一娼妓梅毒中藥價及諸費等の支辨方法の件

●娼妓の證文改正　去る日の事なりさか當市四ッ足町なる公證人千阪彥四郞氏は當双街女紅場に臨まれ、各樓主立合にて從來樓主さ娼妓さの間に取り結びたる私書證文を改め百數十名の娼妓殘らず公證々書に書き替たりさ、聞く處に依れば余り公平ならさる文字もありさかや、知らず廢娼を以て世に起つの諸氏は之れに向つて如何なる感じかある聞かま欲しきことにこそ。(靜岡日報)

●當市に廢娼大演説會を開かんさす　右に記載せし娼妓の證文變換の事に付き躰て廢娼の事に熱心なる市の某氏は近日東京名家の辨士を招聘し大演説會を當市寺町若竹座に開き廢娼の可否に付き大に論ずる處ある由なり。

地方通信

●高知縣通信　◎高知縣尋常中學校女子部助教諭森本哲女史は今般東京へ遊學の爲め辭職せられたれば其後任さして多田さく女史助教諭心得に命ぜられたり。

◎高知縣婦人會　去る十一日集會憲法發布を祝し終て親睦の宴會を開きたる由。

◎高知縣下に於る議員惣選擧に就き競爭の最も激烈なるは第二區にして選擧日の切迫するに從ひ自由國民兩派爭鬪の末負傷者も多くあるべしさ赤十字社員は治療の爲め第二區に向て出發せり又た基督教徒婦人は率先して双方の看護の勞を取らんさて充分準備を爲し何時にても出張せんさ意氣込み居りしが憲兵選擧地に於る兩派の壯士に解散を命じければ今は赤十字社員基督教徒婦人の用意は畫餅に屬せりさ雖も縣下の爲めには大に幸福にてありき。

●滋賀縣通信　◎本縣師範學校　創立以來の卒業生は男女合して四百五十七人にして卒業后直接學事に從事せざるもの丶種類幷に人員を調ぶるに町村吏五人收稅屬一人巡査一人宮內省出仕一人私立病院長醫學士一人自宅開業醫一人農三人商八人工一人僧侶二人基督教傳道師一人女子高等師範學校生徒一人なりさいふ以て其變遷の樣を窺ふべし此外傳習科卒業生六百十四人裁縫科卒業生六十七人ありさいふ。

◎私立大津高等女學校　は私立教育會の管理に屬する所なるが昨年末に公布せられし中學校令第十四條の明文によれば高等女學校は中學校に匹敵すべきものなれば該校も充分擴張して之に匹敵するに愧ぢざるものさなさんさて該會にては頗る奮發せりさいふ又昨年末の如きは教育會よりして金二十八圓を該校に寄附して講師幷に教員の慰勞金さなせり。

◎大津私立高等女學校內基督信徒女學生　三人の信徒あり高野孝(聖公會)中村なつ女(組合教會)並川房枝(聖公會)姉等なり尤も高野孝姉は年長に出りて同學校寄宿舍內組長なるよし姉は大和聖公會傳道師卜部德三郞氏の夫人なりさ。

尤も感ずべき一女學生　同女學校生徒野田某女は當縣蒲生郡八日市地方より來り一度寄宿生さなり勉學せられしに此頃家事の困難によりて大に寄宿料に苦まれ遂にはそれが爲めに寄宿せらるゝ事能はず然りさて退學し歸村して再び草を刈るは已が本意にあらず卒業の年も迫まり暫時の間の學期なれ奉公してなりさ素志を果さんものさ此頃當町某店の下婢さなり毎日午前八時頃より后四時迄通學なし下校後は其店の用事に勵き居るによし誠に地方に稀なる心掛け能き勉强家。

◎當縣甲賀郡土山警察署長中屋氏夫人　中屋氏は久敷肺病に苦まれ居たるが遂に客月下旬鬼籍の數に入られ後は殘る母親及夫人の悲み限りなし然るに氏は高知縣高知の人なれば如斯次第なるを以て一先づ國元へ親子歸らる途次當地に用事あり七八日滯在中基督教の神の話に慰められ母親も夫人も大に感じ是非神に依りて安心を求めんものと毎に聖書を讀まるゝよし誠に悲むものは幸なり慰めを得べければなりとは此等の事なり。

●高田通信

◎米南脩道婦人教會　本月十四日は同會創立の一周年に當るを以て小出與第一支社は同村光運寺に於て祝賀式を擧行し式會するもの二百餘名にして一同着席するや一先つ僧侶の讀經あり次に同會司計宮崎重太郎氏開會の主趣を述へ又會員入村ふじ子宮崎とめ子祝辭朗讀贊成員阿邊喜三郎谷川諦淨羽賀是暢氏の演說法話等終りて茶菓の饗應ありて無事散會したり私立高田女學校生徒は先年より校內に王女會を設け慈善其他のため大に働き居候同校の評判は頓に增し來り品行風儀全ても他校の比に非らすと。

●仙臺通信

校名	學科	教員	生徒
松操學校	試驗	男三人	女七五八
舟聲私塾	仝	男二女三	女八三
柳梁學校	仝	男一女三	女九六
靜修私塾	仝	男一女一	女四五
仙台裁縫學校	仝	男十一女十一	男一四〇女二〇八
志生私塾	習字	女五男一	男一五〇女三〇
仙台女子職業學校	手工	男一女二	女一三
宮城女學校	普通	男三女五	女三六
万心堂	漢	男一	男三四〇女六〇

◎仙台婦人教會　仝例會は來る廿三日午後二時より本願寺別院にて開き女子は誰にても出席を許す由。

◎客年十二月中の調に由れは仝年高等小學科を卒業したる女子五十四人尋常を卒へたるもの二百六十二人。

震地傳道隊會計餘報

金十五圓也　福音新報社ヨリ貧民救濟金殘餘ノ內寄

附殘不足七圓…也

品名	二月廿五日
白米(一圓に付) 一等米	一斗〇升一合
二等米	一〇二
三等米	一〇五
四等米	一〇八
五等米	一一四
正米(一圓に付) 越中米	一斗四升七合
越後米	一三九
行方米	一四二
土浦米	一四〇
一志米	一三六
雜穀(一圓に付) 本貫大麥	二斗七升五合
上州小麥	一七〇
竹林麥	一八〇
篠澤大豆	二〇〇
青柳大豆	一九六
吟小豆	一六二
白胡麻	一二〇
黑胡麻	一四五
鹽(一圓に付) 赤穗	三、二一五
大鹽	三、二二五
本齋	五、三三〇
新齋	五、七七五
醬油(一圓に付) 最上、極上、上物、中物、並物	七分五厘、七九、八七、一、一〇、一、三〇、一、六〇、一、八〇、二、〇〇、二、一〇、二、七〇
味噌(一圓に付) 地製上白	六、八〇〇貫
同上赤	六、八〇〇
同紅赤	四、三〇〇

品名	二月廿五日
絹糸(一圓に付) 本練花紺色	二、七〇匁
同色物	二、五〇
羽二重糸	二、四〇
延糸太筋	三、三〇
井子糸色物	二、九五
同湖色	二、四〇
極大色物	三、三五
色物太練	二、五五
紡績糸	四、五〇
白木綿(一反に付) 玉鶴	三、二五反
綾鶴	三、六五
日の出竹	三、九五
若柳	二、九〇
兒玉	三、六〇
遂茶	四、〇〇
古新	三、〇五
改メ	三、四〇
眞綿(一圓に付) 上々金	一二〇、〇〇円
上入金	一一五、〇〇
並入金	一〇五、〇〇
縮緬 大巾上馴	五、〇〇円
小巾百廿日立	五、〇〇
同並物	五、〇〇
花色絹糸好(一圓に付) 七十目附	二六、〇匁
八十目附	二六、〇
九十目附	二七、〇
百目附	二八、〇
同小節絹 生八十目附	四二、〇匁
同本秩父絹 生百四十目附	四七、〇匁

品名	二月廿五日
製茶(一貫目に付) 山城江州稀大頭	二、五五円
同稀頭	二、二〇
同大頭	一、七七
同中頭	一、五〇
同中茶	一、二〇
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七五
同大頭	一、五〇
同中頭	一、三五
同中茶	一、一〇
乾海苔(一百枚に付) 洲崎上	九〇錢
大森同	九〇
深川砂村同	八五
大師湖田同	八〇
鰹節(十貫目に付) 土佐上	二五、〇〇
薩摩大	二〇、五〇
城の腰小	二一、〇〇
房總中	二〇、〇〇
銚子上	一七、〇〇
水戸磐城	一六、〇〇
南部仙臺	一三、五〇
水油(百斤に付) 地水	六、五五円
胡麻	一〇、二〇
荏油	九、七〇
桐油	六、〇〇
冬	七、五二
坂水	七、五五
石油(一箱に付) チヤスター	、、、円
デボース	、、、
ホーキ	一、七一
ロシヤ	一、七〇

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學生

第廿一號

價五錢五厘
郵稅 五厘

去る廿五日發兌せし女學生廿一號には**茶道論**を掲げて茶湯の先祖**利休宗匠の人物**を論じ、**文學武道**及び**禪學の鍛錬**と比較し、**茶道教育の要素**を說きて終に**茶道の極意**を發表するの長論文を掲げたり。此他廣島、長崎及び横濱、東京の**八女學校の秀才**筆を競ふて掲げたるあり。

女學雜誌社發行

定價			
一册。	前金	五錢五厘	郵稅。五厘
六册。	前金	三拾三錢	但郵稅共
十二册。	前金	六拾六錢	但郵稅共

本誌は每月一回廿一日に發兌す○代價は前金拂込を要す○爲替は麹町郵便局宛にて振込被下度○郵券代用は五厘切手にて一割増の事○見本郵券六錢にて送るべ○

女學雜誌大賣捌所

東京。東海堂○同武藏屋○同巖々堂○同重陽堂○同東京堂○同盛春堂○同解明堂○同團々社○同万字堂○横濱新聞共同發賣會社○大坂福音社○同岡島支店○京都東枝律書店○同大黑屋書店○神戸福音社○函館福音社○熊本草野書店○松江盛進堂

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人述 つれづれ草講義	一册	價金八錢	
鈴木弘恭大人述 文法口授	一册	同十六錢	
鈴木弘恭大人述 百人一首講義	一册(四版)	上三十五錢	並二十八錢
船越鼎太郎君著 産婦小兒攝生法	一册	金十六錢	
關輪正路君纂 ひめ鑑	一册	同四十五錢	
中島俊子君著 善惡之岐	一册	同卅五錢	
横山雅男君著 婚姻論	一册	同十六錢	
島田三郎、植木枝盛兩君演說 廢娼演說	一册	同五錢	
巖本善治君述 妓樓全廢	一册	同五錢	
島田三郎、巖本善治同著 公娼可滅	一册	同四錢	
農學士寺尾熊三君著 植物學	一册	同十二錢	

女學雜誌社
下六番町六番地

看護婦生徒募集廣告

此回本社看護婦生徒ヲ召募ス志望ノ者ハ本月中本社病院ヘ申込ム可シ但シ年齡二十歲以上三十歲以下身幹四尺六寸以上ニシテ健康獨身ノ者ニ限ル猶規則並ニ申込手續ハ南豐島郡下澁谷村字笄開谷病院ニ就テ承合スヘシ

廿五年二月十七日

日本赤十字社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

皇后陛下
明宮殿下
御覽濟の書

若松賤子譯

小公子

一冊三十八錢也

近日再版出來上可申候

郵税一冊八錢也

鈴木弘恭大人講述

第四版

百人一首講義

附錄小倉てびき

新年に至り注文いよ／＼多く第三版品切に成りたれば玆に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百八一首それ／＼の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得る至極重寶の案内書なり。

下六番町六番地　女學雜誌社

神學博士スピンヂル氏著
牧師三並良氏譯

基督教約說

全　定價廿錢　郵税四錢

此書は我國に始めて自由基督教を紹介し博學篤信を以て世を風靡したる博士スピンヂル氏の著述にして基督教教理と倫理とを說くものなり文字は簡明平易にして論旨は高尙深邃なり當時自由基督教を說明するの書中此書の右に出づる者あらざるべし自由基督教を研究窺知せんと欲する有志諸君は乞ふ購讀あれ

賣捌　京橋區出雲町警醒社○駿河臺鈴木町世光社
神田錦町三丁目誠屋○其他各基督教書店

女生徒幼兒募集

來ル四月當校附屬高等女學校小學校幷ニ幼稚園ニ於テ生徒及幼兒ノ入校ヲ許ス詳細ハ當校ニ就キ承合スベシ

二月　女子高等師範學校

雜誌定價		
一冊	六錢	郵税五厘
十一冊	五拾八錢	郵税五錢
半年分	壹圓四拾三錢	府外は壹圓五拾六錢（但府内無郵税）
一年分	貳圓六拾錢	府外は貳圓八拾六錢（同前）

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

皇后陛下
明宮殿下
御覽濟の書

若松賤子譯
小公子
近日再版出來上可申候
一冊三十八錢也
郵税一冊八錢也

鈴木弘恭大人講述
第四版 百人一首講義
附錄小倉てびき

新年に至り注文いよ〳〵多く第三版品切に成りたれば玆に第四版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ〴〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得る至極重寶の案内書なり。

下六番町六番地　女學雜誌社

神學博士スピンチル氏著
牧師三並良氏譯
●○●○基督教約說○●○●
全　定價廿錢　郵税四錢

此書は我國に始めて自由基督教を紹介し博學篤信を以て世を風靡したる博士スピンチル氏の著述にして基督教教理と倫理とを說くものなり文字は簡明平易にして論旨は高尚深邃なり當時自由基督教を說明するの書中此書の右に出づる者あらざるべし自由基督教を研究窺知せんと欲する有志諸君は乞ふ購讀あれ

賣捌　京橋區出雲町警醒社○駿河臺鈴木町世光社
神田錦町三丁目誠屋○其他各基督教書店

女生徒幼兒募集
來ル四月當校附屬高等女學校小學校幷ニ幼稚園ニ於テ生徒及幼兒ノ入校ヲ許ス
詳細ハ當校ニ就キ承合スベシ
二月　女子高等師範學校

雜誌定價			
一冊	六錢	郵税。五厘	(但府內無郵税)
十一冊	五拾八錢	郵税。五錢	(同前)
半年分	壹圓四拾三錢	府外は	壹圓五拾六錢
一年分	貳圓六拾錢	府外は	貳圓八拾六錢

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三